

# 環境負荷の低減・気候変動への対応



ニチレイグループでは、グループ環境方針を定め、地球温暖化防止、持続可能な資源循環の推進、自然との共生を3つの重点課題としています。

当社グループが行う事業活動は、サプライチェーン上の様々な関係者により成り立っており、食品工場や低温物流センターなど、自らの事業所だけでなく、お客さまやお取引先の活動も含めた環境影響に広く関わっていく必要があります。

また、食のインフラを支える当社グループの事業活動は、原材料の調達において自然生態系に依存しており、気候変動の影響を大きく受けます。そこで当社グループは、お取引先と連携しながら以下の活動に取り組んでいます。

- ・食品製造におけるエネルギーの効率的な利用
- ・低温保管・輸送における効率性の向上を通じた温室効果ガス排出量の削減
- ・再生可能エネルギーの利用促進を通じた、サプライチェーン全体が与える気候変動への影響の低減

- ニチレイグループ環境方針 <https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/concept.html>
- ニチレイグループ生物多様性方針
- 環境マネジメント体制 <https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/system.html>

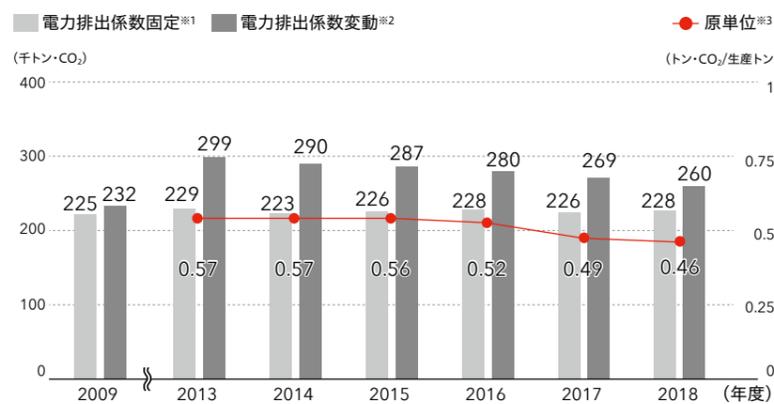
## 環境負荷の低減

### グループ環境中期目標

2019～2021年度グループ 環境目標		対象事業所
CO <sub>2</sub>	2021年度の総CO <sub>2</sub> 排出量を、2013年度実績「維持」 ※電力係数:2013年度の係数で固定	グループ国内の全事業所
廃棄物	リサイクル率 99%以上を維持	グループ国内の全事業所
	動植物性残渣の削減に取り組む	ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュの国内食品工場
水	各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて水資源の保全に取り組む	ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュの国内食品工場

海外データ …海外事業所における環境データの収集に取り組む

### ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移



※1 電力排出係数固定:電気事業連合会公表2009年度使用端CO<sub>2</sub>排出原単位0.412[t-CO<sub>2</sub>/MWh]を全国で共通使用  
 ※2 電力排出係数変動:各事業所で使用する年度における電力事業者の電力換算係数を使用  
 ※3 電力排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ(国内自営工場および関連工場)および、ニチレイフレッシュ(国内関連工場)  
 そのうち以下を除く  
 ニチレイフーズ:(株)ニチレイ・アイス  
 ニチレイフレッシュ:(株)ニチレイフレッシュファーム、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平

## 気候変動への取り組み

### 輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

#### モーダルシフト※1の推進

ニチレイロジグループは、2003年から輸送手段をトラック輸送から鉄道、船舶に替えて環境負荷を低減するモーダルシフトに取り組んでいます。

北海道から九州までのフェリー輸送について、2009年からルートを変更したことにより、CO<sub>2</sub>排出量を30%削減※2しました。また、ニチレイフーズは、エコシップマーク※3の認定企業です。

また、ニチレイロジグループの海外子会社であるオランダのヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社では、CO<sub>2</sub>削減のため、バージ船※4を活用しています。同社の倉庫は岸壁に隣接しているため、コンテナヤードから倉庫までの輸送にバージ船を活用し、トラック利用を極限まで少なくしています。

※1 モーダルシフト(modal shift):トラックや航空機による輸送を鉄道や船舶による輸送に転換すること  
 ※2 国内でのモーダルシフトにおけるCO<sub>2</sub>排出量30%削減は一運行あたりの計測によるものです  
 ※3 エコシップマーク:海上輸送を一定以上の割合で利用して認定された荷主企業や物流企業が、環境対策に貢献する企業としてわかるマーク  
 ※4 河川を航行できる運搬船



### フロンへの対応

#### 自然冷媒の活用と冷媒漏れ防止による効率運転

ニチレイロジグループでは、冷蔵倉庫の新設・増設には基本的に自然冷媒を選択しており、既存設備についてもフロン冷凍設備から自然冷媒冷凍設備への更新を推進しています。また、冷凍機の冷媒漏洩削減のため、2013年度から、従来の10倍以上の精度を持つ高感度の検知器を導入する等、全国の物流センターで冷媒漏洩点検の強化を行っています。

2018年9月からは(株)日立製作所と共同で、船橋物流センターにおいて、先端IoT技術を活用し、冷凍設備の故障予兆診断と、設備運転・メンテナンスの効率化に向けた共同実証を行っています。エネルギー消費を可視化し、運用改善の分析をすることで、冷蔵設備の高効率運転を行います。

### 容器包装におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

#### プラスチックの削減

パッケージや容器の見直しによりプラスチックの使用量を減らすことでCO<sub>2</sub>削減に努めています。

- ・「焼おにぎり 10個入」や「今川焼」のトレーの廃止
- ・「本格炒め炒飯」のパッケージを薄肉化
- ・「えびとチーズのグラタン」、「えびとチーズのドリア」の容器の厚みを薄肉化



## 生物多様性の取り組み

### 絶滅危惧種アツモリソウの保護支援と生物多様性保全パートナーシップ協定

<https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/action/office>

ニチレイグループは、長野県富士見町でランをはじめとする園芸植物の研究・育種を行っていたことなどから、2003年度よりカマナシホテイアツモリソウをはじめとするアツモリソウ類の保全再生活動に参加しました。2014年度には人工増殖によるカマナシホテイアツモリソウの開花に成功し、2018年度には103輪が開花するという成果をあげています。2019年2月、長野県、富士見町、富士見町アツモリソウ再生会議と当社は、「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結しました。

協定期間は2019年4月1日から2022年3月31日までの3年間で、ニチレイグループはアツモリソウ類の保全再生に必要な技術提供や、活動に必要な経費の一部を支援していきます。

